遊学舎武雄こども園　園だより
2025 年（令和 7 年）　１２月号

「１７８のこころ」

新入園児さんが４名加わり、１２名となったふたばぐみです。

なにか変化が起きるかな？と、ドキドキする担任とは反対に、泣いている友だちにそっと近づき、頭をよしよし...

ひざを曲げて顔をのぞきこみ、「どうしたの？」「大丈夫？」と声をかけるかのように寄り添うお友だちの姿...

大人が「〇〇してあげてね。」「こうするんだよ。」とおしえたわけでもないのに、自然と行動にうつす姿に、人を”想う”心の成長を感じます。

新入園児さんたちが、全力で表現してくれるいろんな想い。その想いを私たちは日々受けとめています。かかわりの中で、少しでも表情が和らぎ、また違う想いを表現してくれるととても嬉しく、心はガッツポーズです！！

園生活のどんな場面においても、小さな小さな成長でも、その積み重ねが気づくと大きな成長となっていて、「すごいね」と驚きと感動、成長の喜びの連続です。

ふたばぐみさん一人ひとりに寄り添い、想いを紡いでかかわりを深め、お家の方とお子様の成長を喜び合っていきたいです。

１２月に入って急に冬らしい寒さを感じるようになりました。新しい年も、もうすぐそこ。

今年を振り返って、素敵な風景を２つ。１つめは、ある３歳児さんのお部屋での風景。家族に関する絵本の読み聞かせの後に、家族を想って寂しくなった子がいました。その様子を見た他のお友だちから「でも、私がいるよ！」という声が。そうするとまた別の子も「私もいるよ！」と声をかけたそうです。寂しくなった子は「そうだね！」と笑顔でコットに歩いていき、ぐっすり眠ったそうです。

もう１つには、年下の子どもが遊ぶ傍らで「ここは危ないからね。」「靴を脱いであがろうね。」など、優しく声掛けをしながら見守る年上の子どもの姿や年下の子の歩みに合わせて共に遊ぶ姿が日々の生活のなかに、とても自然にみられるようになりました。

もともと人間は皆、生まれながらに自己愛を持っていて、それは必ず他者への愛につながると聞いたことがあります。自分が満たされることで初めて他者を大切にできる。武雄こども園の子どもたちは、きっとお家で本当に大切に慈しみ、守られているのでしょう。だからこそお友だちや年下の子どもの悲しみやどうにもならない想いに、大人を介さずとも添うことができるのだと思います。まだ生まれて数年の子どもたちが、お互いを埋め合い、支え合う姿に何とも言えない気持ちになった、そんな１年でした。

子どもたちよ
子ども時代をしっかりと楽しんでください
おとなになってから
老人になってから
あなたを支えてくれるのは
子ども時代の「あなた」です
石井 桃子

保護者の皆様、今年１年間、園の教育・保育にご理解とご協力を賜り本当にありがとうございました。皆様の温かな想いと想いがつながり、子どもたちを優しく包み込んだ１年となりました。どうぞ大切な方々と穏やかな年末年始をお過ごしください。新しい年も、私たちは心から安心できるなかで、自分で選び、決定し、安心して挑戦と失敗ができる、そんな園を子どもたち、そして保護者様と共につくっていきたいと思います。